

情報連絡員だより

－令和元年9月の報告より－

消費税駆け込み需要は限定的

業種 / 景況天気図		概況
全体		10月の消費税増税を踏まえた駆け込み需要は、限定的なものにとどまる。印刷・小口配送において認められるが、いずれも軽微で、業況の回復には至っていない。また、台風15号など大型台風の影響が各所に及んでおり、今後の復旧や需要・消費動向を注視している様子が見える。
製 業	食料品	天候に恵まれ暑い日が続いたことで、菓子は全体的に良好な推移となり前年並みとなった反面、パンは、売上・収益ともに悪化。製麺は、大手の寡占化や消費量減少などにより厳しさが継続。酒造は、普通酒の落ち込みが大きく出荷量減少。食肉は、豚は順調だが、牛のと畜・カット頭数が低調となり収益悪化。
	繊維・同製品	桐生織物は、婦人服地・輸出向け・和装織物とも、来年の秋冬物の商談会や見本市に向けてサンプル作成に取り掛かる。伊勢崎織物は、和装の需要低迷が継続、広巾織物は好調を維持。ニットは、原料・運賃の高騰などにより販売価格が上昇。繊維製品は、新規顧客開拓の動き少なく業績悪化。
	窯業・土石製品	コンクリートブロックは、連休が続いたことで設備操業度が低下し、出荷量が低調となる。生コンは、これまで出荷量が少なかった東毛・西毛地区を中心に出荷量が増加し、前年比増となる。砂利は、地区によりバラツキはあるが、出荷量が若干増加している。砕石は、吾妻地域を除き、売上・収益ともに悪化している。
	機械・金属	鍍金は、消費税増税の影響により10月以降の業況が悪化すると見込んでいる。電気関連は、多くの取引先が決算期を迎え売上増加。半導体関連は、依然として不調。自動車関連は、全体的に設備操業度が相変わらず低調であるものの、アメリカからの日本車に対する追加関税が見送られ胸をなでおろす。
	その他の製造業	木材は、人員不足から設備操業度が下降し生産量減少、消費税増税前の駆け込み需要はみられず。紙加工品も駆け込み需要は発生せず、稼働日数が少なかったことで全体的に低調な推移となる。印刷は、駆け込み需要の影響により売上が若干増加。ゴム製品は、消費税増税による今後の動向を注視している。
非 製 業	卸売業	卸団地は、売上にバラツキがあるが収益は前年並み、米中貿易摩擦による売上低迷や消費税増税による消費減、原材料や人件費等のコスト増への対応が課題となっている。農産物卸は、冬・春野菜は千葉県産が多いため、台風被害の今後への影響を懸念している。水産物卸は、サンマが不漁により品薄となり売上減少。
	小売業	中古車オークションは、手数料収入が順調に増加し収益改善。生花小売は、敬老の日や彼岸関係で売上確保。燃料小売は、販売価格低下に伴い売上減少、消費税増税による需要減少を懸念。家電小売は、消費税増税前の駆け込み需要はみられない。商店街も一部を除き駆け込み需要はなく、新税率への対応に戸惑っている。
	サービス業	温泉旅館は、2回の3連休により宿泊客が増加したところが多いが、一部に台風の影響がみられる。吾妻地域における不動産取引は、全体として前年並み、草津や北軽井沢などの観光地・別荘地では低調に推移。建築設計は、改正建築物省エネ法に対応するための準備を進める。自動車整備は、売上・収益ともに前年並み。
	建設業	建設工事は、公共工事の地域間における事業量格差が拡大している。解体工事は、空き家対策補助金を活用した住宅解体工事が増加しているが、人手不足が続く。電気工事は、受注量は前年並みだが、作業員が不足している。塗装工事は、売上は前年並みだが、閉塞感が漂う。鉄構は、ボルトの需給問題が緩和しつつある。
	運輸業	全体的に、消費税増税前の駆け込み需要はあまりみられない。また、中東の石油施設攻撃による燃料費高騰を懸念している様子が見える。野菜関係は、台風の影響で滞った分を県内で補ったため、県内の配送量増加。小口配送は、駆け込み需要とみられる依頼があり、食料品・医薬品PETの配送量と引越し依頼増加。